

別れの言葉



例年より暖かかった冬も終わりを告げ、桜のつぼみが色づきはじめる季節になってきました。春の光に背中を押され旅立っていく令和初めての卒業生として、この日を迎えられたことに誇りを感じます。

初々しい姿で校門をくぐったあの日から、早三年。思い出のつまった制服に袖を通すのも今日で最後です。「初めて」の連続だった中学校生活に不安を抱いていましたが、先生方の手厚い指導や優しく接してくれる先輩方のおかげで、充実した日々を送ることができました。

学習について振り返ると、一・二年生のころは勉強に対する意識が足りず、三年生になってから、基本の大切さを深く痛感するようになりました。受験勉強では、自分の目標や希望を見すえ、それに向かってひたすらに頑張りました。時にはテストなどの成績で伸び悩み、不安になるときもありましたが、自分の将来に期待をもち、努力をすることで少しずつ結果がついてくるようになったと思います。

中学三年間で勉強と同じくらい大切だったこと、それは部活動です。全員が勉強との両立をめざし、励んできました。一年生のときの僕たちは、先輩を前にして、その落ち着きと、部活動に対するまじめな姿に身が引きしめる思いがしたのを今でも覚えています。

二年生になると、後輩が入ってきたことにより、今までになかった責任感を抱くようになりました。最上級生である三年生になり、自分のことだけ考えて行っていた頃に比べて、部活動が、チーム全体がレベルアップするためにはどうするか、「富中プライド」を発揮するためにはどう在ればいいのかと、考えが変化していきました。三十四年分の伝統を、三十五年目の後輩たちに「つなぐ」、そんな大切な役割を、僕たちは部活動を通して学ぶことができました。

また、仲間との思い出の一つとして記憶に残っているのは修学旅行です。鎌倉や東京など、三日間をかけて関東方面をめぐるしました。計画を立てるときには、友だちと東京を歩く姿を想像し、胸を躍らせました。この旅行の中では、鎌倉の歴史ある寺社を参拝したり、東京で企業訪問をしたりしました。見慣れない景色に感動しながら、絆を深めてきた仲間たちと共に過ごした鎌倉や東京での研修、東京ディズニーリゾート、思い出話や好きな人の話で盛り上がり、笑顔がたえなかった新幹線やホテル、すべての時間が宝物です。友だちと協力した三日間は、初めての体験と貴重な経験の連続で、多くのことを学んだ大切な思い出となりました。

三年間の中学校生活において、最も印象に残った行事は榎祭です。今年度の榎祭のテーマは「Believe in our story～思い出はこの瞬間に～」。テーマに合わせてオープニングを作成したり、装飾したりすることは簡単ではありませんでしたが、話し合いを重ね、目に見える形にしていきました。しかし、いざリハーサルを始めてみると、みんなの息が合わず、スムーズには進みませんでした。合唱コンクールへ向けては、朝、昼、放課後と練習を重ねても、思いのすれ違いにより、うまくいかない日々が続く、「僕たちは本当に発表できるのか」という不安は募るばかりでした。ですが、めげずに意見をぶつけ合い、繰り返し練習をすることで、僕たちはその壁を越えていきました。榎祭へ向けて、それぞれが全力を尽くしている中で、友だちの意外な一面を見ることもでき、互いをより理解することができました。榎祭を通して学んだことは、必ずこれからの生活に生きてくると思います。

そして、僕たちは命の重みや「生きる」ことの大切さなどを考え直すきっかけになった出来事がありました。

「だから、生きる!」。多くの人はこの言葉に聞き覚えがあるはずです。盲目のバイオリニスト増田太郎さんが富田中学校に来校してくださった、あの教育講演ライブでは、感動を生む演奏が会場全体に広がりました。

僕たちは三年間で多くの人と関わってきました。当たり前のように毎日を過ごしていく中で忘れてしまいそうになる「人は誰かに支えられ、孤独ではない」というメッセージを、太郎さんは音色という形で送ってくれました。僕たちは、この富田中学校を巣立ち、これから生きていく上で「生きる」ことの意味について考え続けなければなりません。太郎さんは、そのためのきっかけをくれました。困難が立ちふさがり、目の前に広がる景色が真っ暗になってしまっても、諦めずに走り続ければ、いつか光が差す。太郎さんはこのようなことを伝えたかったのだと思います。希望をもち、前を向いて走り続けることの大切さを伝えてくれた太郎さんの意思を受け、これから生きていきます。

実は、今日を迎えるまで、僕たちにはいくつもの不安がありました。それは、呼名されての証書授与はあるのか、校歌、式歌は歌えるのか…もしかしたら、この学び舎に集うことはないのかもしれないという思いです。

ですが、今、ここに卒業生が集まることができました。一堂に会し、一人一人に証書を授与して頂く機会を与えてくださったことをうれしく感じています。

この特別な日々の中で、当たり前なことは何一つないのだということ、日常に感謝することの大切さ、「今」という一瞬を懸命に生きることの重要性を改めて考えさせられました。

そうやって振り返ると、この三年間で学んだことは勉強だけではないと気付きました。クラス、部活、学校行事の係など、人と関わりを築く中で、仲間と助け合ったこと、より良くなるようにと、一つの目標に向かい走り続けたことで、心が成長したのだと思います。

ともに卒業を迎える皆さん、僕たちに「卒業」という「場」を与えてくださった先生方、そして、ここまで支え導いてくれた家族、本当にありがとうございました。富田中学校での経験を、新しい生活に、未来に生かしていくことをここに誓い、別れの言葉といたします。